

■狩野芳崖 日本画家。維新で御用絵師から転落し、路頭に迷いながら刻苦勉強して復活、新日本画運動の先頭に。

かのうほうがい

シボク事件・1828＝ 長門国下関で、長府藩御用絵師狩野家の四代董信の子に生まれる。

父に師事し、

大塩平八郎乱1837＝ 9歳：

勅進帳初演・1840＝12歳：この頃、松隣、松林と号したが、

阿部正弘首座1845＝17歳：

孝明天皇・・・1846＝18歳：江戸へ出、木挽町狩野家の勝川院雅信の門に入る。

北斎没・・・1849＝21歳：勝海雅道の称を許され、同年入門の橋本雅邦とともに竜虎とうたわれ、
国定忠治磔・1850＝22歳：塾頭となるものの、

ペリー来航・1853＝25歳：

安政大地震・1855＝27歳：

蕃書調所・・・1857＝29歳：郷里へ帰り、雪舟、雪村らの作品に傾倒、芳崖を名乗るようになった。
五ヶ国条約・1858＝30歳：結婚。

桜田門外変・1860＝32歳：

幕末の騒乱の中、画筆を捨てて国事に奔走するうち、

禁門の変・・・1864＝36歳：

明治維新・・・1868＝40歳：明治維新となり、社会的混乱に加えて、

廃藩置県・・・1871＝43歳：廃藩置県後は禄を離れたことなどのため、

明治6年政変 1873＝45歳：

生活に困窮し他業に転じるなど辛酸をなめ、

西南戦争・・・1877＝49歳：上京、

路頭に迷うような生活のなかで、砲兵工廠図案課などに勤めたり、島津家の恩顧を受けたりしながら、画業に励み、

明治14年政変1881＝53歳：

新体詩抄・・・1882＝54歳：

秩父事件・・・1884＝56歳：*第2回全国絵画共進会に出品した「桜下勇駒図」「雪景山水図」がフェノロサに認められ、やがて岡倉天心とも知った。

内閣発足・・・1885＝57歳：フェノロサとの第1回鑑画会で、狩野派の懸腕直筆の描線と雪舟画のもつ古典的な気魄のこもった空間表現の上に合理的な写実性を加えた「谿間雄飛」を発表、3等賞。文部省図画取調掛雇いになる。

帝国大学始・1886＝58歳：*ついで色彩に開眼し、パリから取り寄せたカーミン系の赤やコバルト、ピンク等を使用した「仁王捉鬼」が第2回鑑画会で1等賞を得、フェノロサらの新日本画創造の道を開く鑑画会の先頭に立つに至った。

国民之友始・1887＝59歳：洋風の陰影法や空気遠近法的手法をとり入れた「不動明王」を経て、近代日本画の原点となる「悲母観音像」の制作に取り組む。画題、構図は中国の仏画に拠ったものの、解剖学的人体の研究をもとに、描線に柔軟性と写実性を加え、彩色に胡粉(白色)を混ぜることによって中間色の色相を豊かにし、外光派の感覚をとり入れるなど、多くの試みをしたが、

初の対等条約1888＝60歳：東京美術学校初代日本画主任教授に予定されるなか、*後3日あれば'の言葉を遺して、没した。

武田恒夫「狩野派絵画史」、
「この人どんな人」、
「没年日本史人物事典」、
「日本の群像」、
平凡社百科事典、
山田風太郎「人間臨終図巻」、
「目でみる日本人物百科」。